

『享保以後大阪出版書籍目録』(大阪図書出版業組合編、1936) 以降の
近代書誌の空白を八十年ぶりに埋める。



品出員合組業版出書圖阪大



場々會覽展化文版出阪大

書誌・出版史・書物メディア史のシリーズ *文庫文献類從 58*

大阪出版史 —図書総目録と出版界

参考品

編
推

集—金沢文庫閣編集部
薦—戸家 誠

全四十別卷
【復刻版】

場々會覽展化文版出阪大

年百三始創記

東京の出版情報が中心の『出版年鑑』では
どうしても手薄になりがちだった「大阪」という空間。
「大阪」の個性あふれる各出版社の販売出版物を一覧することができる
1920年代に発行された「総合目録」を集成・整備する。
『出版年鑑(1926~)』未刊期のものも含め、
「大阪」近代出版史の全貌を俯瞰することが可能に。

大阪の出版物は、「円本や雑誌の如き太鼓や鉢で囃し立てて宣伝する種類の出版物無く、極めて質実なる性質の出版物多数を占むるため陸離たる光彩の外觀は見られないが、我国第一の経済都市たる大阪の出版業者としての地位を、辱しめないだけの実力が充分看取し得られる」

(1929年、博多久吉〔大阪図書出版業組合組合長〕)。

イメージで語らず資料に基づいて語ろう —『「大阪」出版史—図書総目録と出版界』推薦文

戸家誠（出版流通史研究）

このたびの復刻版企画は 1920 年代の大坂出版界を知る資料として「大阪図書出版業組合」組合員の「図書目録」6 点と、組合機関誌『図書時報』「大阪出版文化展覧会記念号」大正 15 年 7 月号が収載されている。図書目録の書誌情報は（目録であるだけに）シンプルなもので、著者・書名・形体（判型と装丁）・定価・発行所、とすこぶる簡潔で内容紹介が無いのが残念だが、著者と書名と分類標示から推察するしかない。ただ、1920 年代大阪の出版物がまとまって分かるのはこれまでないことだけに、大阪にとってメジャーな出版社の書誌を知る良い機会になるだろう。

大阪の出版社は、どのような出版物を作るかも重要ではあったが、何よりも如何に売るかに力点が置かれていたようだ。大阪の多くの出版社は営業手法が東京と違っていて、取次会社を経由して商品を送ることより、取引きのある地方の有力書店に直接出向いて営業することで絆を深くし意思疎通を良くしておく手法が執られていた。ローカル書店には電話など無い店が普通で、連絡は手紙で良かったのである。遍く全ての書店と取引きせずとも、永い付き合いのある店から商品は流れていったのである。また書誌データ部分に「送料」があるのは読者直接販売が意識されており、同様に振替口座番号があるのも書店が無い地方の読者が欲しい本を求めるためにも必須の項目であった。

1920年代大阪出版界を知る手立てとして、本復刻版資料の隅から隅まで眺め、読み込むことによって、大阪の出版の一端をイメージで語るのでなく資料に基づいて語ることが出来るようになるだろう。世に知られていない資料に出会えることは楽しく嬉しいことだ。(抄録)



大正時代の前半は「大阪出版の黄金時代」で、通俗書さらに教科書・学習参考書がそれに加わり、出版がま

文観堂 家村吉兵衛											
地歴研究會員 生田百濟	實地測量詳報 大日本明細地圖	九山陰 五畿内 山陽東部同上 南洋四國 州陽東部同上 西國	家村文観堂								
著者 書	繪畫の手本 續繪畫の手本 新繪畫の手本 繪畫手本 雪の巻	スミカズ スミカズ スミカズ スミカズ スミカズ	名								
石田美喜藏 山村暮鳥 同直行 岸八木 同鳩峯 同純一 宇崎純一 段谷秋比登 崎純一 同登	ホケツト 創作童話 ガラスの家 人葦舟の兒 羊林檎 時計	手本 手本 手本 手本 手本	本 本 本 本 本	數體 數體 數體 數體 數體	一 一 一 一 一	五 △ ▲ △ △	一 △ △ △ △	一 △ △ △ △	一 △ △ △ △	一 △ △ △ △	六
現今の歐米 見たる實業家の 神人葦舟の兒 創作童話 ガラスの家 羊林檎 時計	一 二 合 三	一 二 合 三	五 △ △ △ △	一 二 合 四	一 二 合 三	一 二 合 四	一 二 合 三	一 二 合 四	一 二 合 三	一 二 合 四	十各五等 各五等 地符

大阪出版史 —図書総目録と出版界

全四十別巻
〔復刻版〕

■近上屋於會影撮念記會覽文化版出版大念記年賀三始創

「大阪」出版黄金時代を語る別巻の二大資料

図書総目録資料として、別巻に

①1923年関東大震災により東京が壊滅的な被害を受ける中での大阪出版界による支援、その後の上昇気運を反映したイベントを記録した「大阪出版文化展覧会記念号」(『図書時報』1926年7月号)

②大阪生えぬきの出版業者として明治から昭和にかけての業界の推移、時代の変遷に伴う波乱、業界のあり方などを経験した出版人・脇阪要太郎の貴重証言書。

編集—金沢文庫閣編集部
推薦—戸家誠（出版流通史研究）
本一 B6 / A5 判・上製函・総 1,646 頁
価一 80,000 円

【第一回配本】2017 年 7 月 配本単価 34,000 円 978-4-907236-71-7

第一巻 (314 頁) A5 判
『大阪図書出版業組合員図書総目録』(大阪図書出版業組合、1924)

第二巻 (388 頁) B6 判
『大阪図書出版業組合員図書目録』(大阪図書出版業組合、1926)

【第二回配本】2018 年 2 月 配本単価 46,000 円 978-4-907236-72-4

第三巻 (340 頁) B6 判
『大阪図書出版業組合図書総目録』(大阪図書出版業組合、1929)

第四巻 (210 頁) B6 判
『大阪図書出版組合図書目録』1 号～3 号 (1929 年 9 月～1930 年 3 月)

別巻 (394 頁) B6 判

①『大阪出版文化展覧会記念号』『図書時報』1926 年 7 月号
②『大阪出版六十年のあゆみ』脇阪要太郎著 (大阪出版協同組合、1956) [附録：出版人の面影]

* 総目次、巻別収録出版社名一覧、巻別収録組合員名一覧、出版社名索引、組合員名索引、推薦文

Kanazawa Bumpokaku
金沢文庫閣

〒920-0867 金沢市長土塚2-16-30
Tel 076-261-8884 Fax 233-3111

口書店様へ…ありがとうございます
直接小閣までお申し込みください

図版はすべて本書より
価格は税別 048/07/4000